

かなしん景況レポート



野比海岸 おんべ焼き【提供 横須賀市】

目次

景気動向	地域経済(全業種総合)	4
	業種別経済	6
	特別調査	18
お客様景況インタビュー	株式会社 三紅 「低温物流の拠点として、100年続く企業へ挑戦」	19
トピックス	「神奈川県金融経済概況(日本銀行横浜支店:2024年12月)のポイント」	5
	「気候変動が経済に与える影響と対策について」	9

調査概要

調査時期	令和6年11月13日から令和6年12月6日まで
調査地域	横須賀市・逗子市・三浦市・三浦郡葉山町・鎌倉市・横浜市・川崎市・藤沢市・茅ヶ崎市 大和市・綾瀬市・高座郡寒川町
調査方法	調査員による面接聞き取り方式又は対象企業先による直接記入方式
分析方法	各質問項目で、「増加」(上昇)したとする企業が全体に占める構成比と、「減少」(下降)したとする企業の構成比との差(D.I.)を中心にして分析を行いました。
回答率	調査先数 当金庫取引先 500先 回答先 481先 回答率 96.2%

全業種総合天気図

	2024年1～3月	2024年4～6月	2024年7～9月	2024年10～12月	2025年1～3月 来期予想
全業種総合					
製造業					
卸売業					
小売業					
サービス業					
建設業					
不動産業					

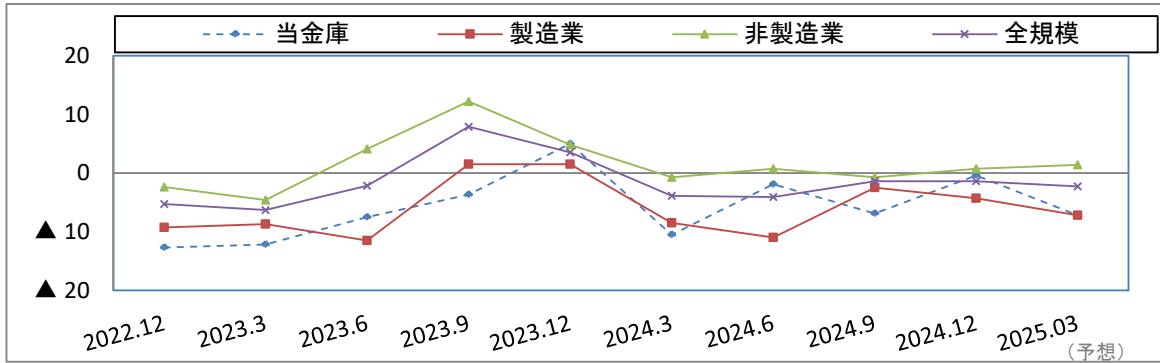
低調

← 天気図 →

好調

この天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。

法人企業景気予測調査(横浜財務事務所:全規模、製造業、非製造業)、当金庫業況DIの推移



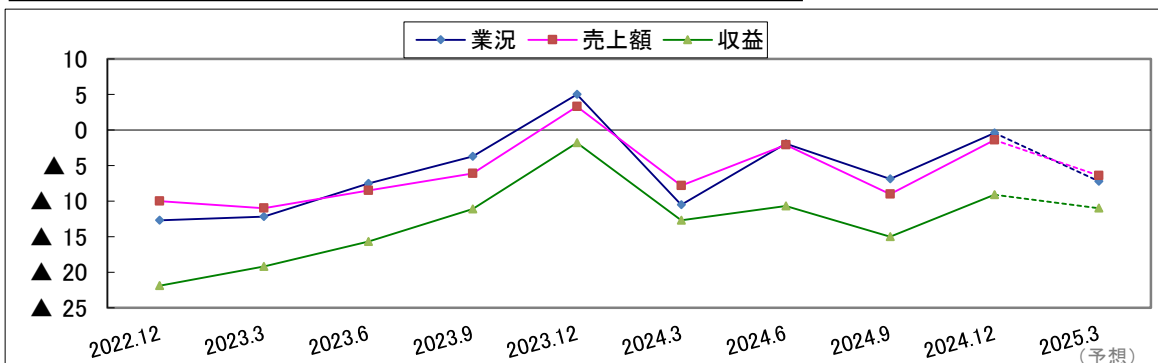
●法人企業景気予測調査 (令和6年10～12月期)

- ・大企業も含めた全規模・全産業の業況判断D. I. は▲1.4と、対前期比で横ばいとなり、4期連続でマイナス圏にとどまりました。来期予想は▲2.3と、小幅に低下する見込みです。
- ・製造業の業況判断D. I. は▲4.3と、対前期比1.8ポイント低下となりました。自動車の部品や建設機械の生産台数減や需要の減少、円安による原材料価格上昇によるコストを販売価格に転嫁できなかったことが影響し、前期は改善しましたが今期は低下となりました。
- ・非製造業の業況判断D. I. は0.7と、対前期比1.4ポイント改善しプラスに転じました。公共事業の受注増や半導体需要の増加を背景に、建設業や情報通信業が全体の景況感を押し上げました。
- ・非製造業については、建設業、情報通信業が改善に寄与した主な業種に、また、娯楽業、不動産業が低下に寄与した主な業種となりました。

●当金庫景気動向調査

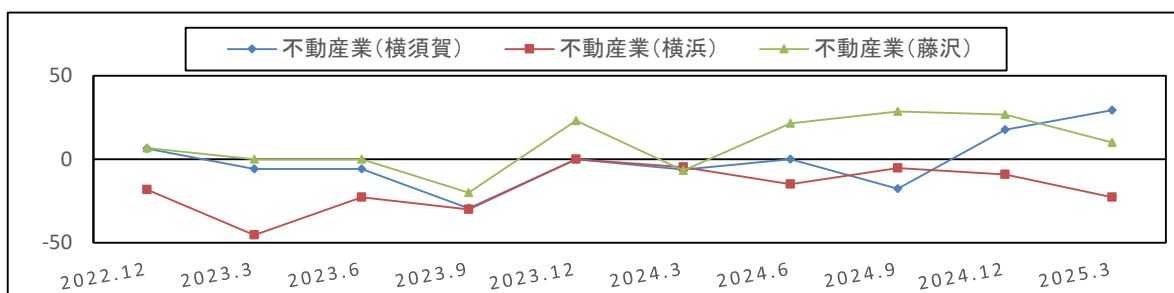
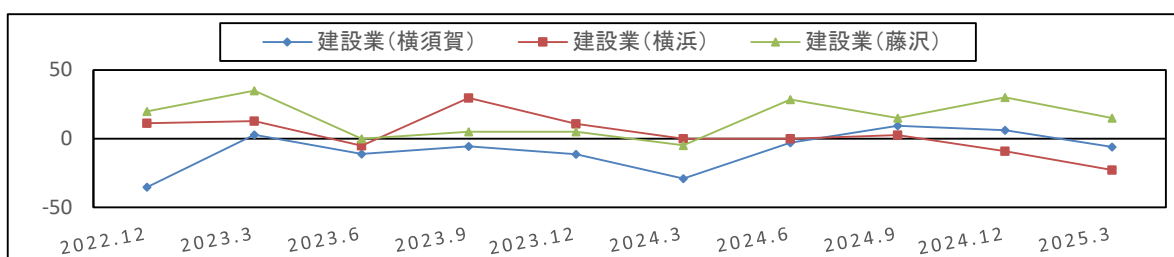
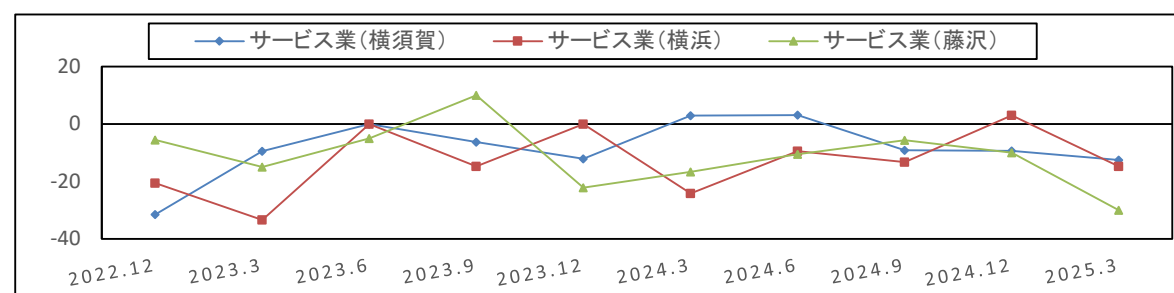
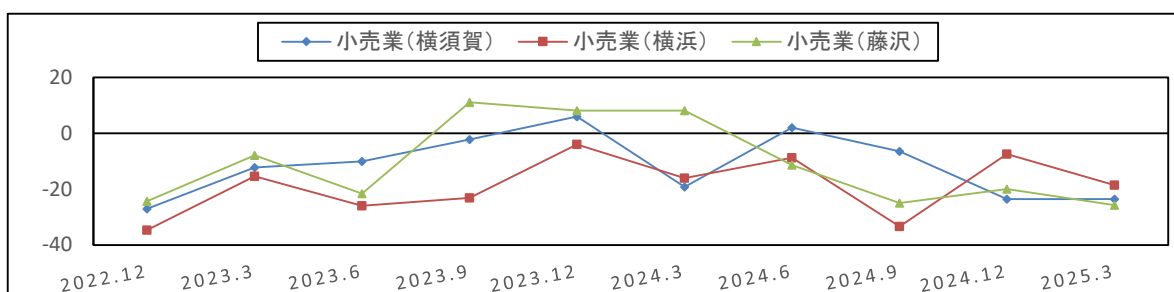
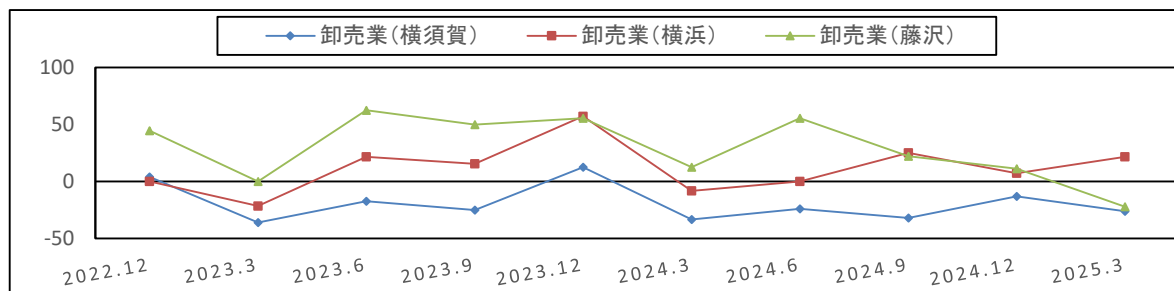
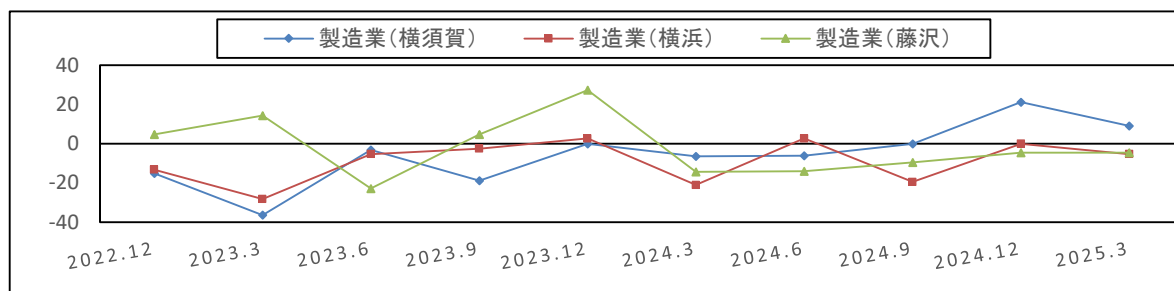
- ・全業種の業況判断D. I. は▲0.4と、対前期比6.5ポイントの改善となりました。来期は▲7.2と、6.8ポイント再度低下する見込みです。製造業と非製造業で集計したところ、製造業は7.5と、対前期比17.3ポイント改善し、非製造業は▲2.4と、対前期比4.0ポイントの改善となりました。

業況・売上額・収益D.I.の推移(全業種総合:当金庫)



2024年10～12月期の業況判断D. I. は▲0.4と、対前期比6.5ポイントの改善となり、前回調査時における今期見通し (5.7) を6.1ポイント下回りました。売上額判断D. I. は▲1.4と、対前期比7.6ポイントの改善、収益判断D. I. は▲9.1と、対前期比5.9ポイントの改善となり、各指標とも改善となりました。「主要取引先との値上げ交渉が落ち着いたことで、売上状況が改善する見込みである」(製造業)、「天候不良による価格高騰の影響を受けている」(卸売業)、「物価の上昇に価格転嫁ができていない」(小売業)、「最低賃金の上昇が経営者には痛手である」(小売業)、「材料費がますます上がっており、長期の計画に不安が残る」(建設業)等、価格転嫁が進展しているコメントがある一方、価格転嫁が進まず、賃金や物価の上昇に苦慮しているコメントも多く見受けられました。

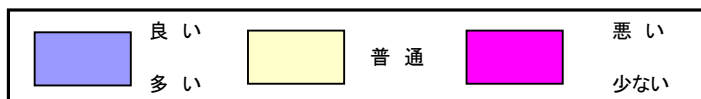
各業種(地区別)の業況の推移(当金庫)



全業種総合

～人手を除き改善、業況はプラス水準間近も来期は再び低下の見込み～

当期実績(2024年10～12月期実績)
来期予想(2025年1～3月期予想)

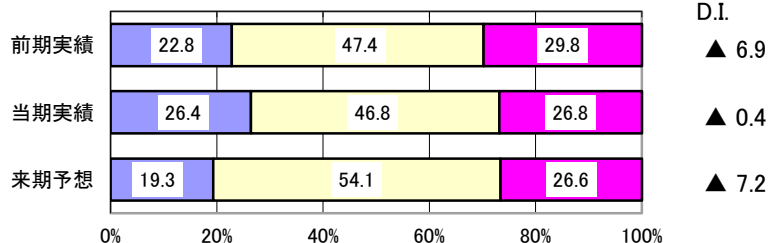


1. 業 況

当期 → 予想

当期の業況判断D. I. は▲0.4と、対前期比6.5ポイントの改善となりましたが、前回調査時における今期見通し(5.7)を6.1ポイント下回りました。業種別に見ると、小売業を除く5業種で改善となり、建設業は3期連続、製造業と不動産業は4期ぶりにプラス水準に転じました。来期予想D. I. は▲7.2と、6.8ポイントの低下となる見込みです。

業 況

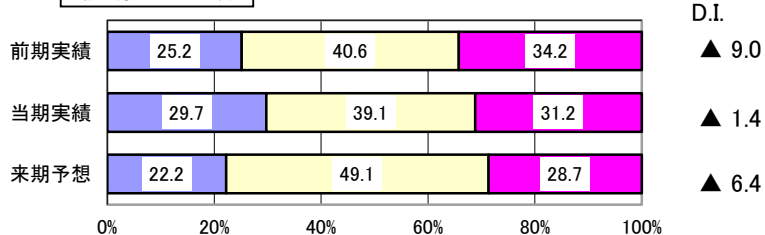


2. 売上額

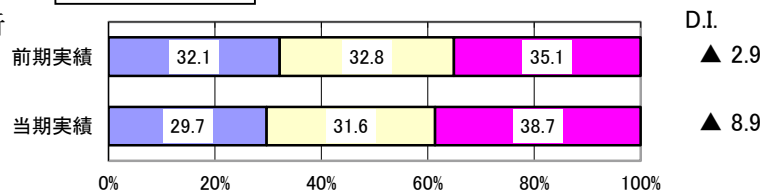
当期 → 予想

当期の売上額判断D. I. は▲1.4と、対前期比7.6ポイントの改善となりました。業種別に見ると、建設業を除く5業種で改善となり、特に卸売業、製造業は改善幅が大きく、プラス水準に転じました。来期予想D. I. は▲6.4と、5.0ポイントの低下となる見込みです。対前年同期比の売上額判断D. I. は▲8.9と、7～9月期から6.0ポイントの低下となりました。

前期比売上額



前年同期比売上額

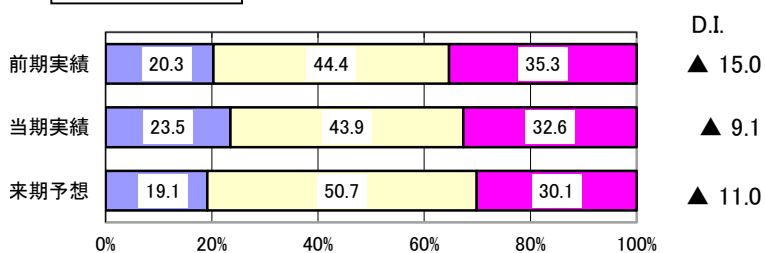


3. 収 益

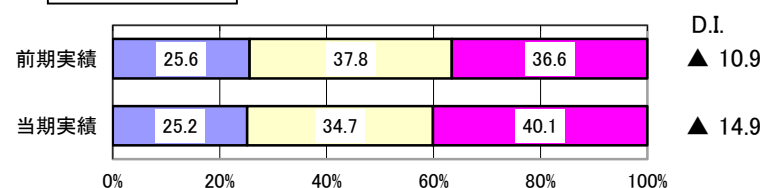
当期 → 予想

当期の収益判断D. I. は▲9.1と、対前期比5.9ポイントの改善となりました。業種別に見ると、小売業を除く5業種で改善となり、不動産業は前期に続いて唯一プラス水準となりました。来期予想D. I. は▲11.0と、1.9ポイントの小幅低下となる見込みです。対前年同期比の収益判断D. I. は▲14.9と、7～9月期から4.0ポイントの低下となりました。

前期比収益



前年同期比収益

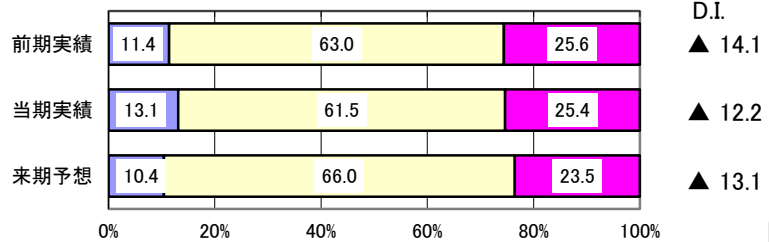


4. 資金繰り

当期 予想
☔ → ☔

資金繰り

当期の資金繰り判断D. I. は▲12.2と、対前期比1.9ポイントの小幅改善となりました。業種別に見ると、改善幅の大きい卸売業がプラス水準に転じ、不動産業も低下となりましたが、4期連続のプラス水準となりました。来期予想D. I. は▲13.1と、0.9ポイントの小幅低下となる見込みです。

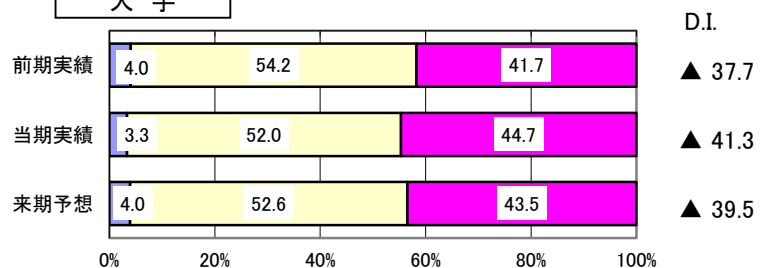


5. 雇 用

当期 予想
☔ → ☔

人 手

当期の雇用判断D. I. (過剰-不足) は▲41.3と、対前期比3.6ポイントの低下となりました。業種別に見ると、製造業、サービス業は改善となりましたが、改善と低下の繰り返して依然として全業種で厳しい水準が続いています。来期予想D. I. は▲39.5と、人手不足感は小幅に緩和する見込みです。



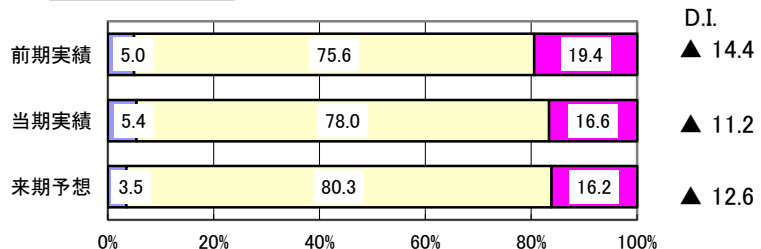
※雇用判断D.I.(過剰-不足) マイナスは人手不足

6. 設備状況

当期 予想
☔ → ☔

設備状況

当期の設備状況判断D. I. は▲11.2と、対前期比3.2ポイントの改善となりました。来期予想D. I. は▲12.6と、不足感は小幅に再び強まる見込みです。



神奈川県金融経済概況(日本銀行横浜支店:2024年12月)のポイント

【総括判断】 一部に弱めの動きもみられるものの、緩やかに回復している。(前回判断据え置き)

【主な個別項目の特記事項】

➤生産：横ばい圏内の動きとなっている。(前回判断据え置き)

- ・素材関連は弱め、輸送機械、はん用・生産用・業務用機械は横ばい圏内の動きとなっている。電気機械は持ち直している。

➤個人消費：一部に弱めの動きもみられるものの、着実に回復している。(前回判断据え置き)

- ・新車登録台数は緩やかに回復、宿泊施設の客室稼働率は高めの水準で推移している。

➤住宅投資：弱めの動きとなっている。(前回判断据え置き)

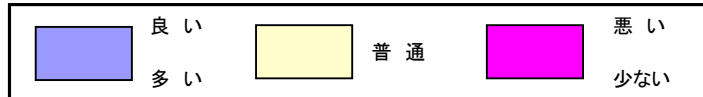
- ・2024年10月の新設住宅着工戸数は分譲戸建てが増加したものの、持家は横ばいとなったほか、分譲マンション、貸家が減少したことから、全体では前年を下回った。

【先行きのリスク要因】 海外経済の成長鈍化による外需（輸出）の低迷、コスト高（物価高）。

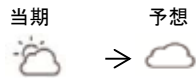
製造業

～全項目で改善となり、業況は4期ぶりのプラス水準に～

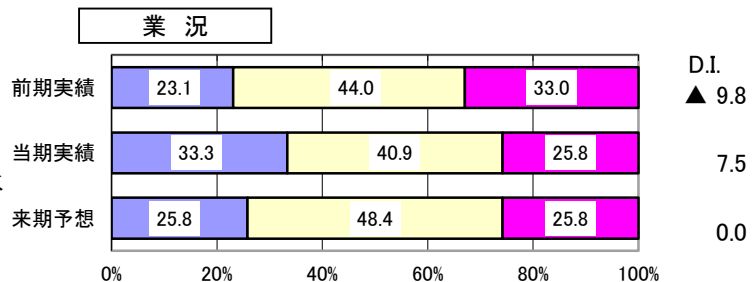
当期実績(2024年10～12月期実績)
来期予想(2025年1～3月期予想)



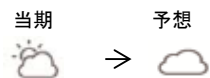
1. 業 況



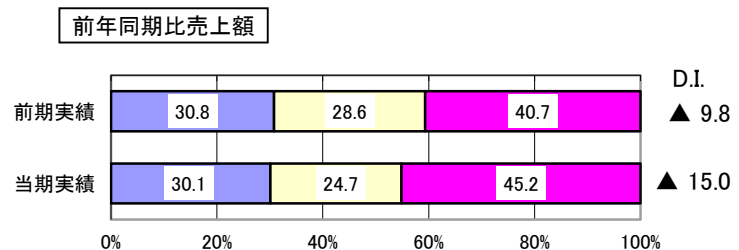
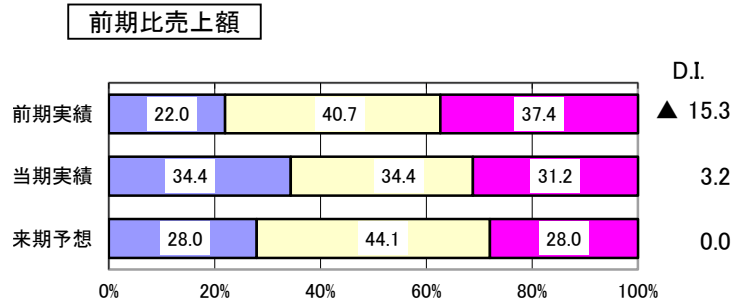
当期の業況判断D. I. は7.5と、対前期比17.3ポイントの改善となり、最も改善幅の大きな業種となり、4期ぶりにプラス水準に転じました。前回調査時における今期見通し(1.0)を6.5ポイント上回りました。来期予想については、D. I. は0.0と7.5ポイントの低下となる見込みです。



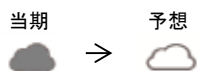
2. 売上 額



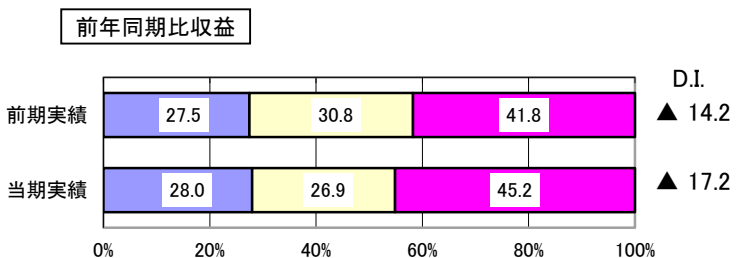
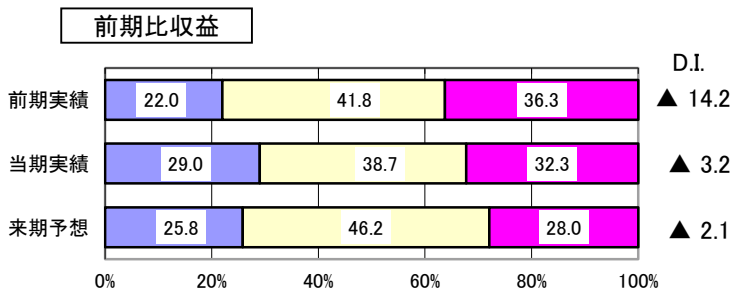
当期の売上額判断D. I. は3.2と、対前期比18.5ポイントの改善となり、業況同様プラス水準に転じました。来期予想については、D. I. は0.0と、3.2ポイントの低下となる見込みです。対前年同期比の売上額判断D. I. は▲15.0と、7～9月期から5.2ポイントの低下となりました。



3. 収 益



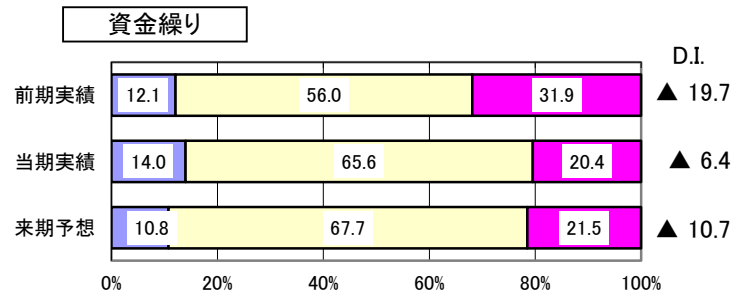
当期の収益判断D. I. は▲3.2と、対前期比11.0ポイントの改善となり、最も改善幅の大きな業種となりました。来期予想については、D. I. は▲2.1と、1.1ポイントの小幅改善となる見込みです。対前年同期比の収益判断D. I. は▲17.2と、7～9月期から3.0ポイントの低下となりました。



4. 資金繰り

当期 予想
☁️ ➔ ☔️

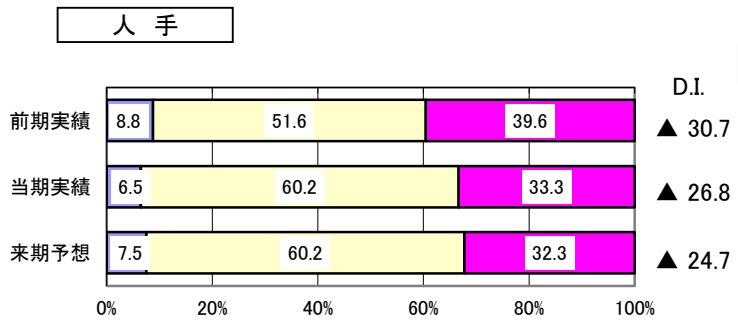
当期の資金繰り判断D. I. は▲6.4と、対前期比13.3ポイントの改善となりました。来期予想については、D. I. は▲10.7と、4.3ポイントの低下となる見込みです。



5. 雇 用

当期 予想
☔️ ➔ ☔️

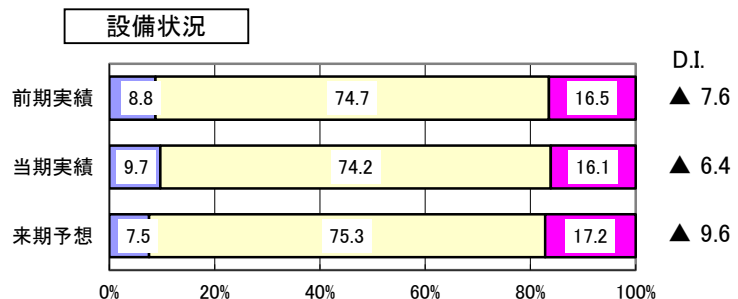
当期の雇用判断D. I. (過剰-不足) は▲26.8と、対前期比3.9ポイントの改善となり、マイナス水準ですが最も良い水準の業種となりました。来期予想については、D. I. は▲24.7と、人手不足感はさらに緩和する見込みです。



6. 設備状況

当期 予想
☁️ ➔ ☁️

当期の設備状況判断D. I. は▲6.4と、対前期比1.2ポイントの小幅改善となりました。来期予想については、D. I. は▲9.6と、不足感は再び強まる見込みです。



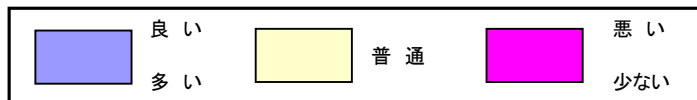
調 査 先 の コ メ ン ト

- 24年度下期になり受・発注量の減少が顕著となり、25年度への景気回復も厳しいと推察される。
- 9月で底を打ち、受注、生産とも増勢にある。
- 省庁の案件が実りそうなので、年明け令和7年4月1日以降は、見通しが明るいと判断している。
- 取引先から建造中の船を最後に工場閉鎖を告げられ、40名の社員の配置転換に迫られている。
- 取引先との値上交渉が落着し、売上状況は改善見込みも、建機業界の先行きは力強さに欠ける。
- 国内需要の二極化が進む中、一部取引先から受注が増える一方、その反動で人手不足が常態化している。外国人の雇用も考えるべきなのかな不安である。年々、品質要求が強くなり、従来のやり方ではニーズにマッチできないケースがある。それに伴い、当社の業種では環境問題の排水基準が年々厳しくなり、対応しきれない業者もいる。価格転嫁も難しく、厳しい舵取りが求められる。
- 取引先への加工賃金含め、部品費の改定を進めている。
- 当社製造業（金型業界）では、今までの経験では理解できない位に不景気が継続している。
- 当期は夏から秋にかけて気温が高く、動きが悪いと感じた。来期、減税等が実施されるなら景気が上向くと思う。
- 電子決済が多くなり、手持ち現金が不足している。（和菓子の製造、販売）
- 業況は一進一退を繰り返している。
- 人手不足と資材高騰により、仕事量が減少している。年末～年度末の好転を期待している。
- 建設機械の落ち込みが大きく、20%減である。

卸 売 業

～人手を除き各項目とも改善、特に売上は大幅改善でプラス水準に～

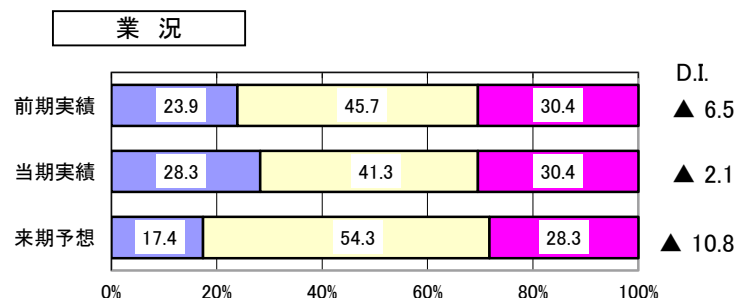
当期実績(2024年10～12月期実績)
来期予想(2025年1～3月期予想)



1. 業 況

当期 予想
☁️ ➡️ ☔️

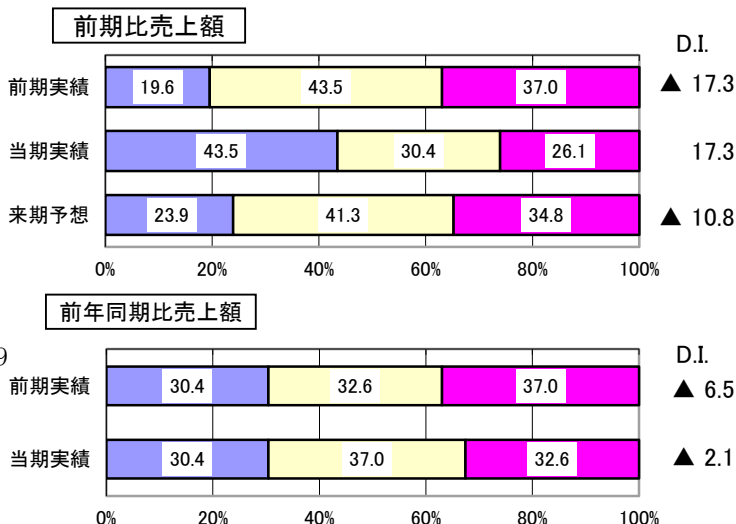
当期の業況判断D. I. は▲2.1と、対前期比4.4ポイントの改善となりましたが、プラス水準までの改善に至らず、前回調査時における今期見通し(13.0)を15.1ポイント下回りました。来期予想については、D. I. は▲10.8と、8.7ポイントの低下となる見込みです。



2. 売 上 額

当期 予想
☀️ ➡️ ☔️

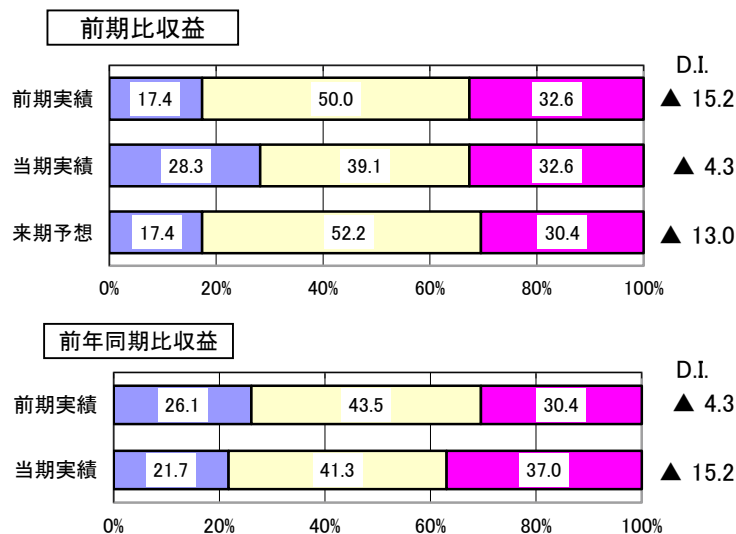
当期の売上額判断D. I. は、17.3と、対前期比34.6ポイントの大幅改善となり、プラス水準に転じ、最も良い水準の業種となりました。来期予想については、D. I. は▲10.8と、28.1ポイントの大幅低下となり、再びマイナス水準となる見込みです。対前年同期比の売上額判断D. I. は▲2.1と、7～9月期から4.4ポイントの改善となりました。



3. 収 益

当期 予想
☁️ ➡️ ☔️

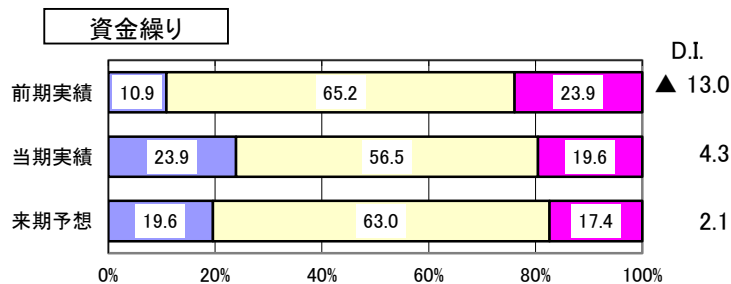
当期の収益判断D. I. は▲4.3と、対前期比10.9ポイントの改善となり、改善幅が製造業に次いで大きな業種となりました。来期予想については、D. I. は▲13.0と、8.7ポイントの低下となる見込みです。対前年同期比の収益判断D. I. は▲15.2と、7～9月期から10.9ポイントの低下となりました。



4. 資金繰り

当期 予想
☁️ → ☁️

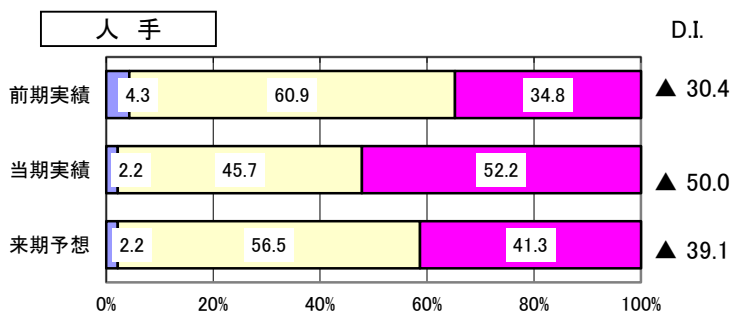
当期の資金繰り判断D. I. は4.3と、対前期比17.3ポイントの改善となり、最も改善幅が大きく、最も良い水準の業種となりました。来期予想については、D. I. は2.1と、2.2ポイントの小幅低下となる見込みです。



5. 雇用

当期 予想
☔️ → ☔️

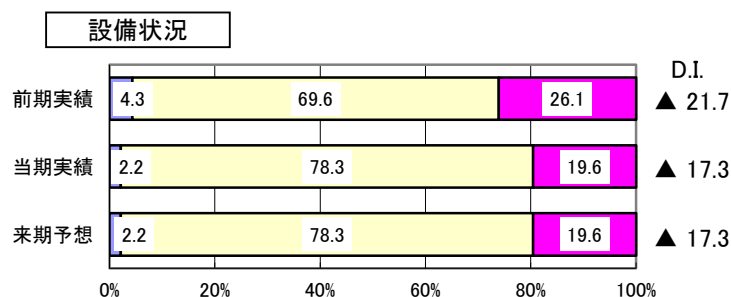
当期の雇用判断D. I. (過剰-不足) は▲50.0と、対前期比19.6ポイントの低下となり、建設業に次いで厳しい水準となりました。来期予想については、D. I. は▲39.1と、人手不足感は再び緩和する見込みです。



6. 設備状況

当期 予想
☔️ → ☔️

当期の設備状況判断D. I. は▲17.3と、対前期比4.4ポイントの改善となりました。来期予想については、D. I. は▲17.3と、不足感は横ばいとなる見込みです。



調査先のコメント

- 当社においては、大型プロジェクトの売上計上、売掛金回収があり、通常営業に加算されたことで資金繰りがやや楽となった。
- 天候不良による価格高騰の影響を受けている。
- 異常気象による海苔の収穫量が落ち込んだこともあり、取引先からの問い合わせが多い。
- 昨今の物価高による価格上昇に伴い、売上は上昇しているものの、追従して仕入価格も上昇しており利益確保に苦慮している。
- 10月頃から、急に見積り依頼が減少し、受注も動きが鈍くなり、先行きが不安である。

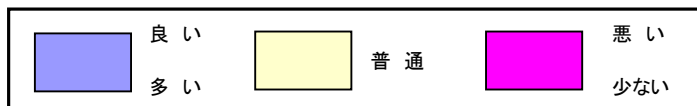
気候変動が経済に与える影響と対策について

気候変動は、企業が事業活動を行うために欠かせない経営資源（原材料、商品、施設等）に様々な影響を与えます。自然災害など突発的な影響のみならず、気候パターンの変化により水資源や農作物、水産物への長期的な影響も含まれ、その範囲はサプライチェーン全体に波及し、生産能力の低下や運用コストの増加など事業活動に影響を及ぼします。気候変動の対策として、温暖化の原因となる温室効果ガス削減のための再生可能エネルギーや省エネなどの緩和策と、大きな災害に備えた防潮堤の建設や農作物の品種改良など、気候の変化に合わせて社会や経済のシステムを調整していくような適応策といった早急な対応が求められています。

小 売 業

～業況・売上・収益等、最も厳しい水準に、来期も厳しい水準が続く見込み～

当期実績(2024年10～12月期実績)
来期予想(2025年1～3月期予想)

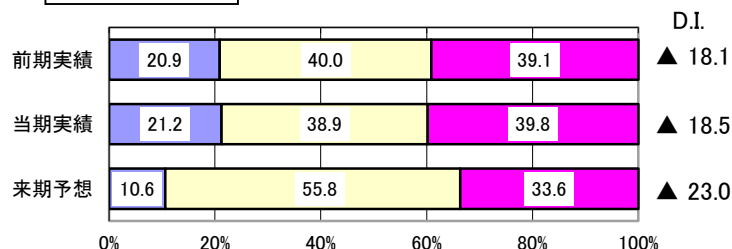


1. 業 況

当期 予想
☔ → ☔

当期の業況判断D. I. は▲18.5と、対前期比0.4ポイントの小幅低下となり、最も低い水準の業種となりました。前回調査時における今期見通し(2.7)を21.2ポイントと大きく下回りました。来期予想については、D. I. は▲23.0と、さらに4.5ポイントの低下となり、来期も厳しい水準となる見込みです。

業 況

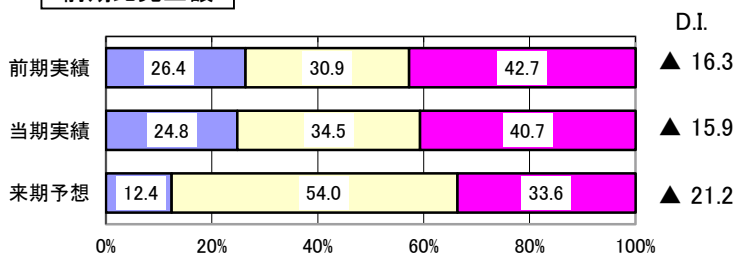


2. 売 上 額

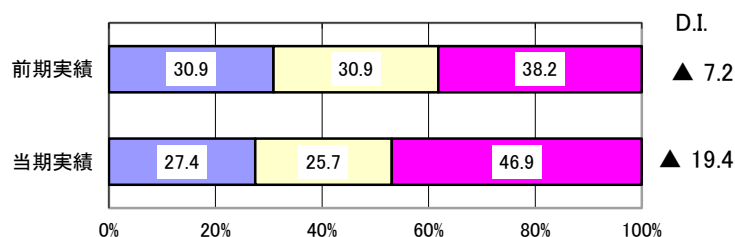
当期 予想
☔ → ☔

当期の売上額判断D. I. は▲15.9と、対前期比0.4ポイントの小幅改善となりましたが、業況同様、最も厳しい水準の業種となりました。来期予想については、D. I. は▲21.2と、さらに5.3ポイントの低下となり、来期も厳しい水準となる見込みです。対前年同期比の売上額判断D. I. は▲19.4と、7～9月期から12.2ポイントの低下となりました。

前期比売上額



前年同期比売上額

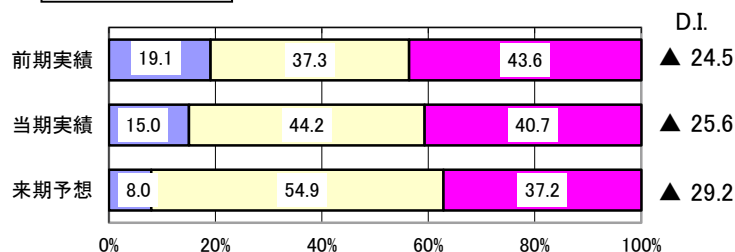


3. 収 益

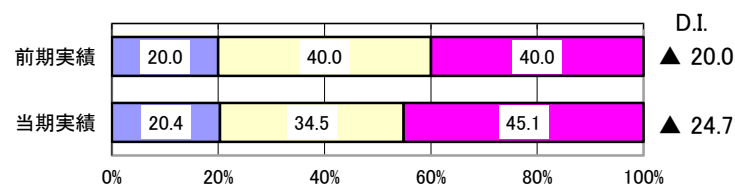
当期 予想
☔ → ☔

当期の収益判断D. I. は▲25.6と、対前期比1.1ポイントの小幅低下となり、業況、売上額同様、最も厳しい水準の業種となりました。来期予想については、D. I. は▲29.2と、さらに3.6ポイントの低下となり、来期も厳しい水準が続く見込みです。対前年同期比の収益判断D. I. は▲24.7と、7～9月期から4.7ポイントの低下となりました。

前期比収益



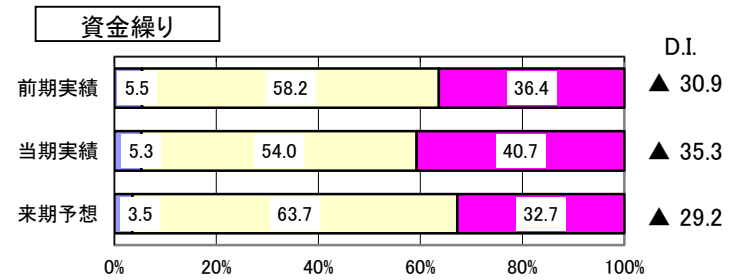
前年同期比収益



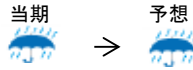
4. 資金繰り



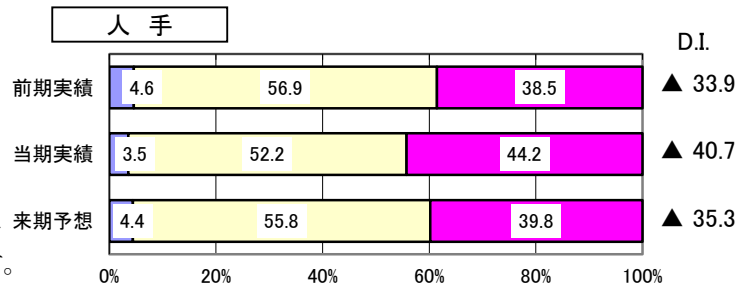
当期の資金繰り判断D. I. は▲35.3と、対前期比4.4ポイントの低下となり、資金繰りが最も厳しい業種となりました。来期予想については、D. I. は▲29.2と6.1ポイント改善する見込みです。



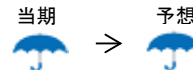
5. 雇用



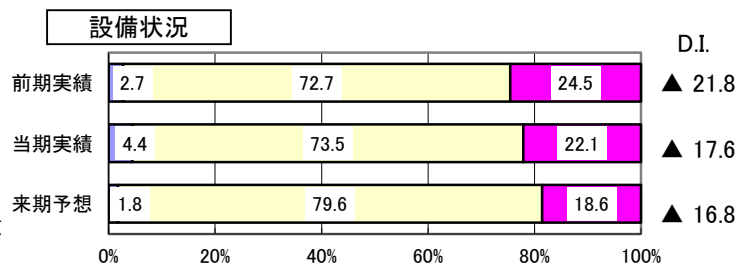
当期の雇用判断D. I. (過剰-不足) は▲40.7と、対前期比6.8ポイントの低下となりました。来期予想については、D. I. は▲35.3と、人手不足感は緩和する見込みです。



6. 設備状況



当期の設備状況判断D. I. は▲17.6と、対前期比4.2ポイントの改善となりました。来期予想については、D. I. は▲16.8と、不足感はわずかながら、さらに緩和する見込みです。



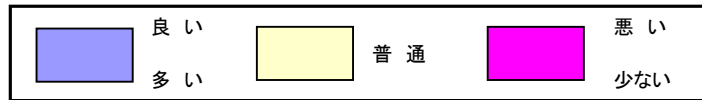
調査先のコメント

- 物価の上昇に価格転嫁が追いついていない。
- 米国の大統領交代や日本国内の政治の混乱による影響で見通しが難しく、動向に注視している。
- 最低賃金の上昇が経営者には痛手である。
- プレミアム商品券の発売に多少の期待はあるが、コロナ禍以降の客足減少が未だに響いている。
- 但し、来年3月過ぎには総合医療センターが開設されるので、町の活性化に期待している。
- ガス、電気、ガソリンにかかる経費が1.5～2倍になり、経費削減で残業を減らし、人件費を抑えようとするれば、売上に影響がでてきてしまうなど、対策に苦慮している。
- 暑さが収まり、経済活動、人流が少しずつ回復していると感じる。プレミアム商品券も消費の契機となっている。秋冬商戦が腰折れしないで本格的に活性化されるか注目される。
- 景気が悪くなる中、追従して各物価も上昇しており、買い物客は減るばかりである。このような状況下で来店客が購入する商品が生活必需品に限られつつある。
- 物価高により買い渋りがあるのではないかと思います。
- 10月から最低賃金が上がったので、人件費がやや増加すると思われる。
- 米不足により、米卸売り販売の米屋全体の売上が増加した。

サービス業

～業況、売上、収益は改善するも、依然としてマイナス水準が続く見込み～

当期実績(2024年10～12月期実績)
来期予想(2025年1～3月期予想)



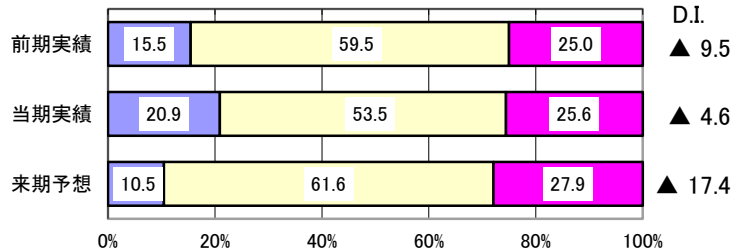
1. 業 況

当期 予想
☁️ ➡️ ☔

当期の業況判断D. I. は▲4.6と、対前期比4.9ポイントの改善となりましたが、小売業に次いで低い水準の業種となりました。前回調査時における今期見通し

(0.0) を4.6ポイント下回りました。来期予想については、D. I. は▲17.4と再び12.8ポイントの低下となる見込みです。

業 況

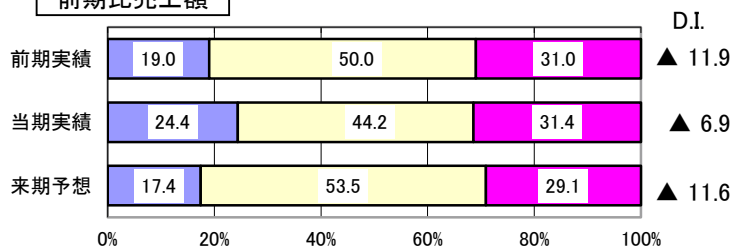


2. 売上 額

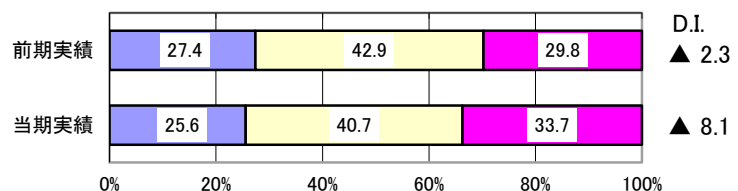
当期 予想
☁️ ➡️ ☔

当期の売上額判断D. I. は▲6.9と、対前期比5.0ポイントの改善となりましたが業況同様、小売業に次いで低い水準の業種となりました。来期予想については、D. I. ▲11.6と再び4.7ポイントの低下となる見込みです。対前年同期比の売上額判断D. I. は▲8.1と、7～9月期から5.8ポイントの低下となりました。

前期比売上額



前年同期比売上額

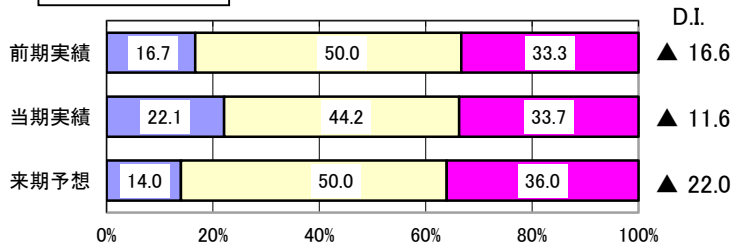


3. 収 益

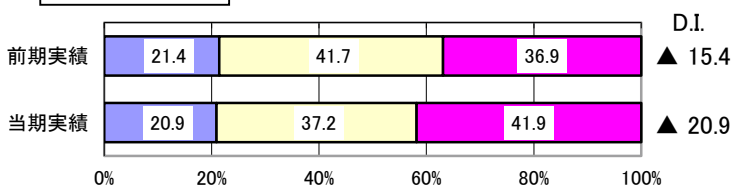
当期 予想
☔ ➡️ ☔

当期の収益判断D. I. は▲11.6と、対前期比5.0ポイントの改善となりましたが業況、売上額同様、小売業に次いで低い水準の業種となりました。来期予想については、D. I. は▲22.0と、再び10.4ポイントの低下となる見込みです。対前年同期比の収益判断D. I. は、▲20.9と、7～9月期から5.5ポイントの低下となりました。

前期比収益



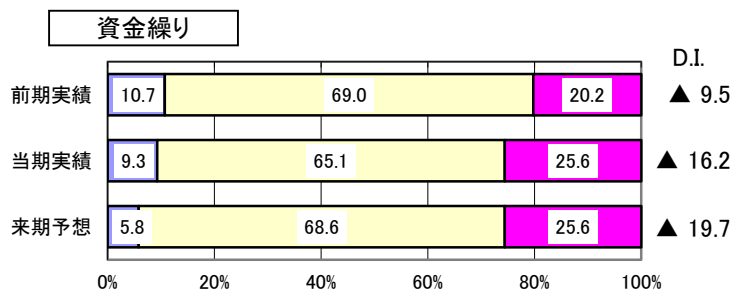
前年同期比収益



4. 資金繰り

当期 予想
☔ → ☔

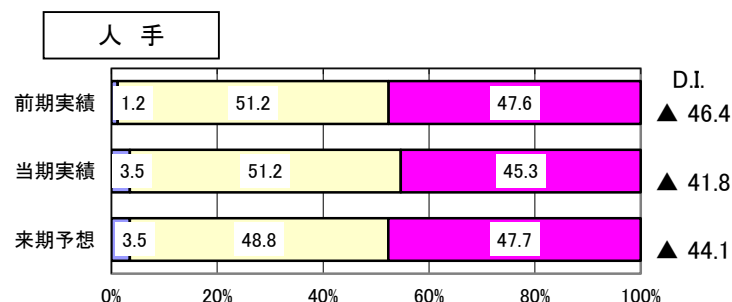
当期の資金繰り判断D. I. は▲16.2と、対前期比6.7ポイントの低下となりました。来期予想については、D. I. は▲19.7と、さらに3.5ポイント低下する見込みです。



5. 雇用

当期 予想
☔ → ☔

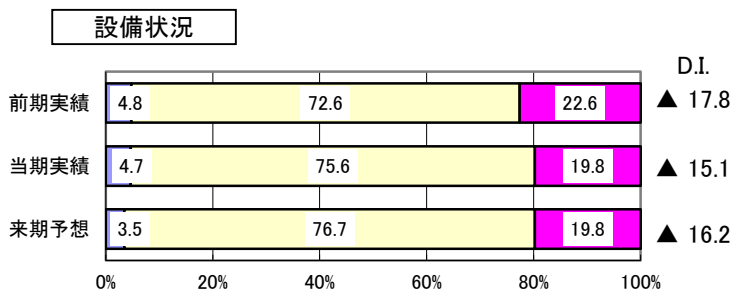
当期の雇用判断D. I. (過剰-不足) は▲41.8と、対前期比4.6ポイントの改善となりました。来期予想については、D. I. は▲44.1と、人手不足感は再び小幅に強まり、建設業について厳しい水準の業種となる見込みです。



6. 設備状況

当期 予想
☔ → ☔

当期の設備状況判断D. I. は▲15.1と、対前期比2.7ポイントの小幅改善となりました。来期予想については、D. I. は▲16.2と1.1ポイント小幅に低下し、不足感は再び強まる見込みです。



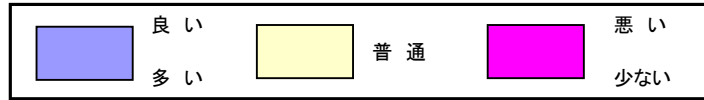
調査先のコメント

- 高齢者のお客様がかなり減少している。
- 税金が高く資金繰りが不安です。
- 業況は昨年に比べて、やや良い方向に向かっている。

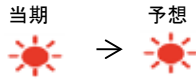
建設業

～業況は3期連続プラス水準に、人手不足感は依然厳しい水準が続く見込み～

当期実績(2024年10～12月期実績)
来期予想(2025年1～3月期予想)

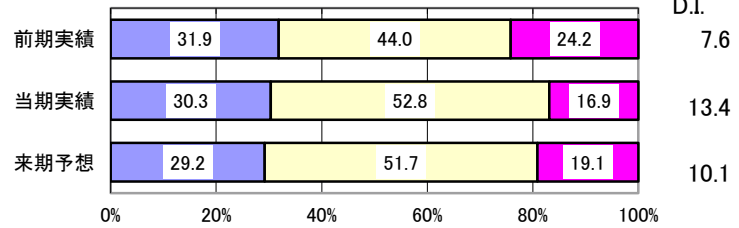


1. 業 況

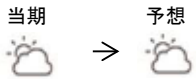


当期の業況判断D. I. は13.4と、対前期比5.8ポイントの改善となり、3期連続のプラス水準となりました。前回調査時における今期見通し(13.1)を0.3ポイント上回り、全業種で最も良い水準となりました。来期予想については、D. I. は10.1と、3.3ポイントの低下となる見込みですが、来期も最も良い水準の業種となる見込みです。

業 況

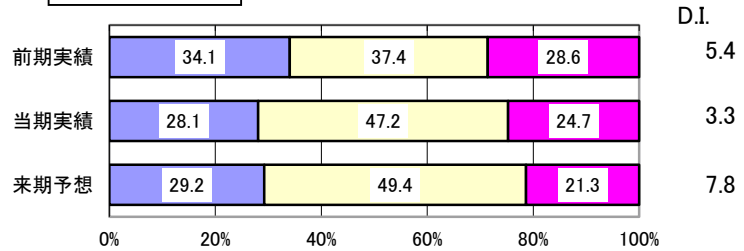


2. 売上額

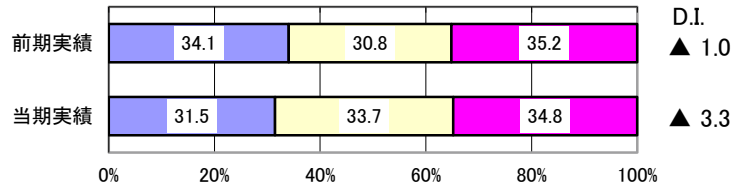


当期の売上額判断D. I. は3.3と、対前期比2.1ポイントの小幅低下となりました。来期予想については、D. I. は7.8と、4.5ポイントの改善となり、最も良い水準の業種となる見込みです。対前年同期比の売上額判断D. I. は▲3.3と、7～9月期から2.3ポイントの小幅低下となりました。

前期比売上額



前年同期比売上額

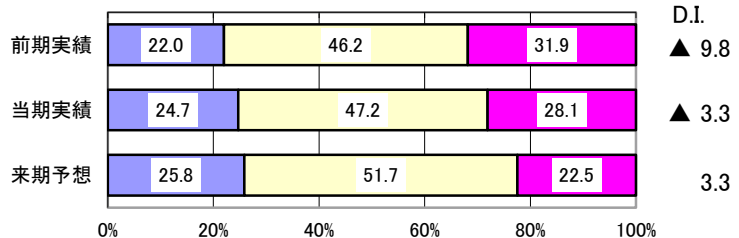


3. 収 益

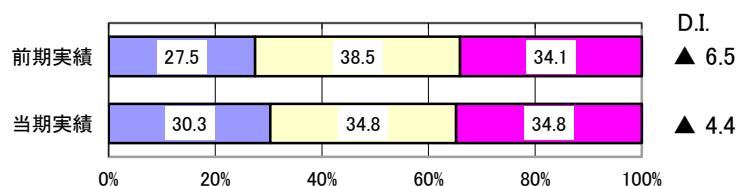


当期の収益判断D. I. は▲3.3と、対前期比6.5ポイントの改善となりました。来期予想については、D. I. は3.3と、6.6ポイントの改善となり、不動産業に次いで良い水準の業種となり、プラス水準に転じる見込みです。対前年同期比の収益判断D. I. は▲4.4と、7～9月期から2.1ポイントの小幅改善となりました。

前期比収益



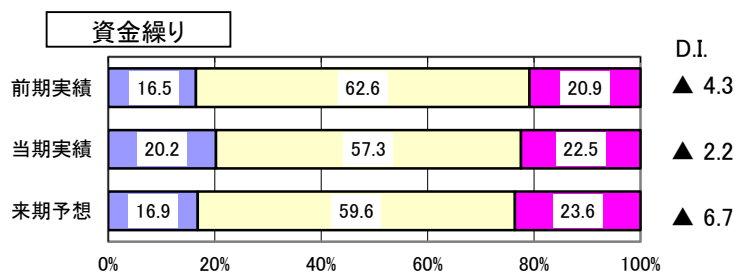
前年同期比収益



4. 資金繰り

当期 予想
☁️ ➔ ☁️

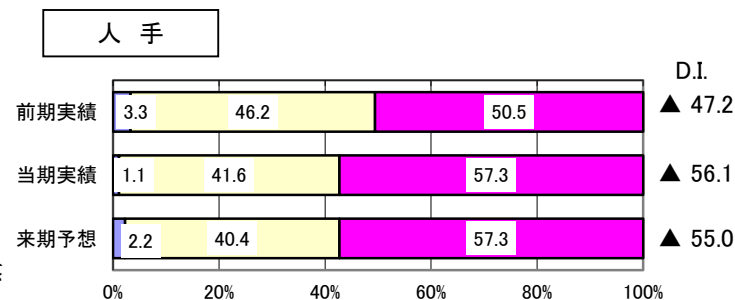
当期の資金繰り判断D. I. は▲2.2と、対前期比2.1ポイントの改善となりました。来期予想については、D. I. は▲6.7と、再び4.5ポイントの低下となる見込みです。



5. 雇 用

当期 予想
☔ ➔ ☔

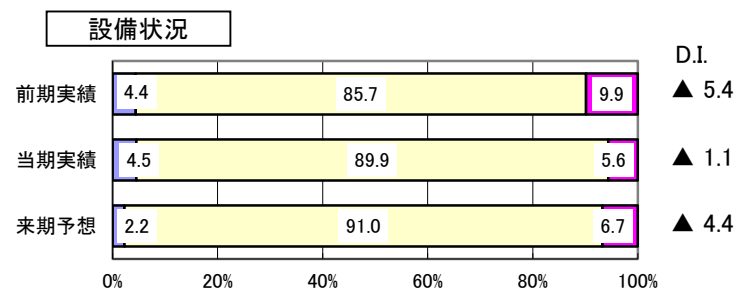
当期の雇用判断D. I. (過剰-不足) は▲56.1と、対前期比8.9ポイントの低下となり、最も厳しい水準の業種となりました。来期予想については、D. I. は▲55.0と、人手不足感は小幅に緩和するものの、依然として厳しい水準が続く見込みです。



6. 設備状況

当期 予想
☁️ ➔ ☁️

当期の設備状況判断D. I. は▲1.1と、対前期比4.3ポイントの改善となりました。来期予想については、D. I. は▲4.4と、不足感は、再び強まる見込みです。



調 査 先 の コ メ ン ト

- 大手企業の組織変動が著しく、今年度は受注先の異動などで、対処する人員が不足気味である。
- 法令改正による事務作業の増加と年々増す人手不足により、得意先からの依頼を断らざるを得ない状況が続いている。解決策はあるが理想論であり、現場への浸透はかなり先の見込み。
- 4月～6月の公共工事の施工時期平準化のため、上半期は受注量も多かったが、下半期に入ってから減少傾向にある。年明け1月末頃までは、この傾向が続くものと考えている。
- 物価や金利上昇、株価下落、人口減の影響などが懸念材料である。
- 公共工事の発注件数が前期（4～6月期）に比べ2分の1程度に減少している。発注時期及び施工期間の平準化を期待する。
- 郊外型分譲マンションが好調。人材集めに経費が掛かる。
- 材料費がますます上がっており、長期の計画に不安が増える。

不動産業

～業況は横ばいとなるも、売上、収益は良い水準に～

当期実績(2024年10～12月期実績)
来期予想(2025年1～3月期予想)

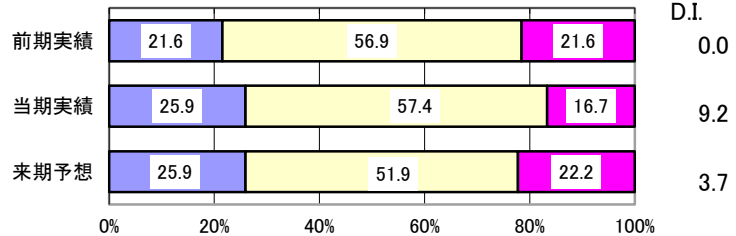


1. 業 況

当期 → 予想

当期の業況判断D. I. は9.2と、対前期比9.2ポイントの改善となり、4期ぶりにプラス水準に転じ、建設業に次いで良い水準の業種となりました。前回調査時における今期見通し(9.8)を0.6ポイント下回りました。来期予想についてはD. I. は3.7と、5.5ポイントの低下となりますが、来期も建設業に次いで良い水準の業種となる見込みです。

業 況

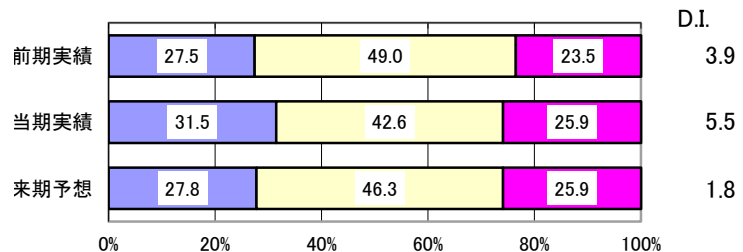


2. 売上額

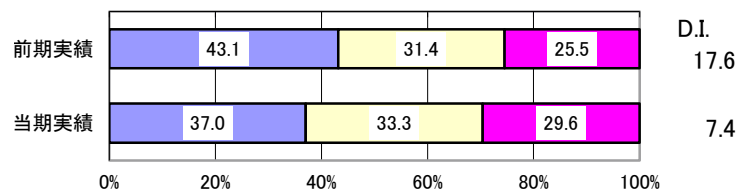
当期 → 予想

当期の売上額判断D. I. は5.5と、対前期比1.6ポイントの小幅改善となり、前期に続いてプラス水準を維持し、業況同様、建設業に次いで良い水準の業種となりました。来期予想については、D. I. は1.8と、3.7ポイントの低下となりますが、業況同様、来期も建設業に次いで良い水準の業種となる見込みです。対前年同期比の売上額判断D. I. は7.4と、7～9月期から10.2ポイントの低下となりました。

前期比売上額



前年同期比売上額

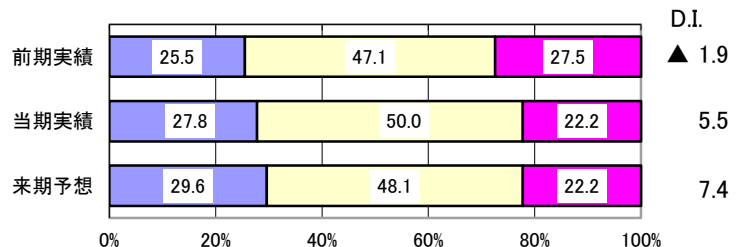


3. 収 益

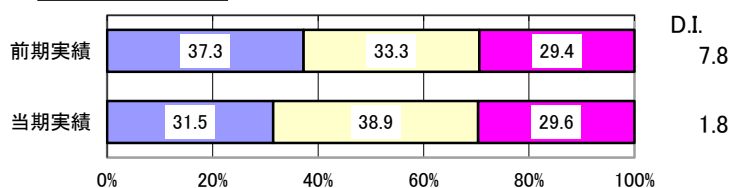
当期 → 予想

当期の収益判断D. I. は5.5と、対前期比7.4ポイントの改善となり、業況、売上額同様、プラス水準に転じました。来期予想については、D. I. は7.4と、1.9ポイントの小幅改善となり、全業種で最も良い水準の業種となる見込みです。対前年同期比の収益判断D. I. は1.8と、7～9月期から6.0ポイントの低下となりました。

前期比収益



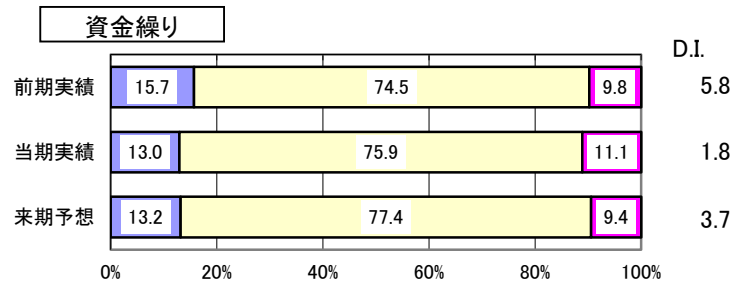
前年同期比収益



4. 資金繰り

当期 予想
☁️ ➔ ☁️

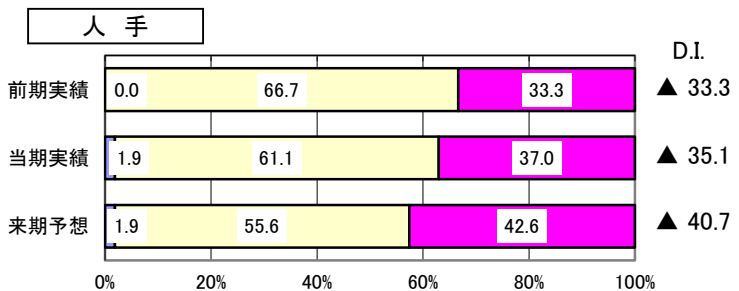
当期の資金繰り判断D. I. は1.8と、対前期比4.0ポイントの低下となりましたが、卸売業に次いで良い水準の業種となりました。来期予想については、D. I. は3.7と、1.9ポイント、小幅改善し、来期は最も良い水準の業種となる見込みです。



5. 雇用

当期 予想
☔ ➔ ☔

当期の雇用判断D. I. (過剰－不足) は▲35.1と、対前期比1.8ポイントの小幅低下となり、人手不足感は強まりました。来期予想については、D. I. は▲40.7と、人手不足感はさらに、強まる見込みです。



調査先のコメント

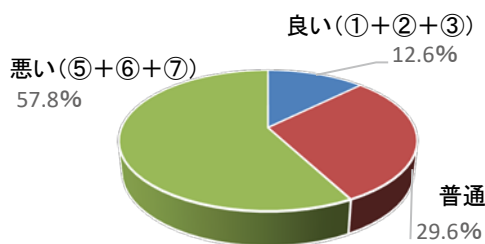
- 販売在庫が10月から増加に転じており、価格調整をしても売れ行きが良くない物件も増加している。但し、物件の特性や価格帯により、市況に差がみられ、地域格差も大きくなっている。
- 今後、個人の住宅投資は悪化傾向を予想している。今後は、集合住宅建築事業にも着手していきたいと考えている。
- 不動産及び建築業界の停滞がある中で、土地の動きが少しずつ増加傾向にあると思われる。よって、来年秋口に向かって徐々に回復していくものと推測している。

特別調査 ……………「2025年(令和7年)の経営見通し」

1.2025年の日本の景気の見通しについて

～2025年、日本の景気の業況D.I.は▲45.2と、1年前(▲34.1)と比較すると、11.1ポイントの低下となった～

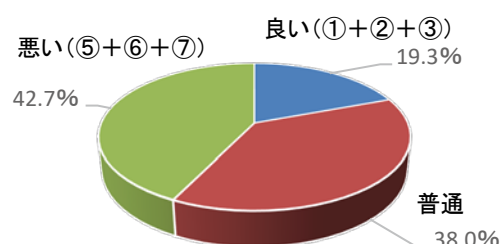
2025年の日本の景気の見通しについては、①「非常に良い」が0%、②「良い」が2.6%、③「やや良い」が10.0%で、景気が良いと見通している回答が12.6%を占めた。一方、⑤「やや悪い」が43.2%、⑥「悪い」が12.2%、⑦「非常に悪い」が2.4%で、景気が悪いと見通している回答が57.8%を占めた。この結果、業況D. I. は▲45.2となった。



2.2025年の自社の業況(景気)の見通しについて

～2025年の自社の業況D.I.は▲23.4と、1年前(▲13.1)と比較すると、10.3ポイントの低下となった～

2025年の自社の業況(景気)については、①「非常に良い」が0.4%、②「良い」が3.7%、③「やや良い」が15.2%で、自社の業況を良いと見通している回答が19.3%を占めた。一方、⑤「やや悪い」33.6%、⑥「悪い」が6.5%、⑦「非常に悪い」が2.6%で、自社の業況を悪いと見通している回答が42.7%を占めた。この結果、業況D. I. は▲23.4となった。



3.2025年の売上額の伸び率について

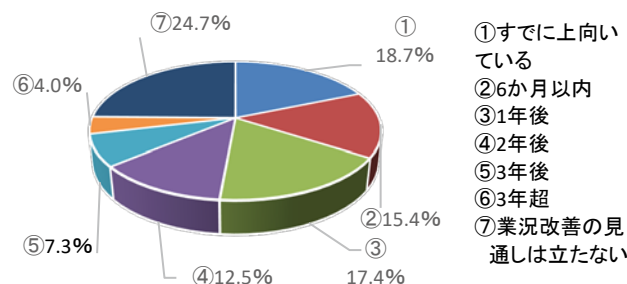
～売上額の伸び率は、増加するとの回答は33.2%となり、1年前(37.6%)と比較すると、4.4%減少した～

2024年と比較した2025年の売上額の伸び率については、「10%未満の増加」～「30%以上の増加」まで合計すると、増加するとの回答は計33.2%を占め、1年前と比較すると4.3%減少した。一方、「10%未満の減少」～「30%以上の減少」まで合計すると、減少するとの回答は計33.8%を占め、1年前と比較すると6.1%増加した。増加するとの回答と減少するとの回答はほぼ同じ割合であった。

4.自社の景気が上向く転換点の見通しについて

～51.5%の企業がおおよそ1年以内に業況が上向くと予想。1年前と同じ割合であった～

自社の業況が上向く転換点の時期については、①「すでに上向いているが」が18.7%、②「6か月以内」が15.4%、③「1年後」が17.4%となり、おおよそ1年以内に上向くとの回答が約50%となり、1年前とほぼ同じ結果であった。一方、⑦「業況改善の見通しは立たない」との回答についても、1年前とほぼ同じ結果で、24.7%であった。



5.脱炭素化について、信用金庫業界に期待する取組み、および信用金庫業界の取組状況について

～期待する取組みは「事例の紹介」、「行政からの支援内容の紹介」で約4割を占めた～

信用金庫業界に期待する取組みについては、「事例の紹介」が19.3%と最も多く、次いで、「行政からの支援内容の紹介」が18.6%、「設備導入支援」が14.3%と続いた。一方、「特にない」という回答が39.0%あった。信用金庫業界の取組状況への認識については、「知っている」が27.5%、「知らない」が72.5%で、おおかたのお客さまが知らないという結果となった。

お客さま景況インタビュー

インタビュー日付

2024 年 11 月 19 日



低温物流の拠点として、100 年続く企業へ挑戦

株式会社 三紅

代表取締役 木下 利夫

本社所在地：神奈川県横浜市瀬谷区卸本町 2147 番地 5

創業：昭和 30 年（1955 年）

事業内容：冷菓・冷凍食品・一般加工食品の卸売、自動販売機による冷菓の販売及び自動販売機の設置・保守管理

同社は、アイスクリームや冷凍食品を扱う低温流通の専門商社として、神奈川県を中心にスーパーマーケット等へ販売を行う他、自動販売機のベンダーとして、設置から保守管理まで様々なサービスを提供しています。来年、創業 70 周年を迎える同社の代表取締役である木下利夫氏にお話を伺いました。

－円安の影響と冷菓・冷凍食品の市場環境－

円安による原材料の値上げが響いています。取引先メーカーも原材料を海外から安く仕入れていましたが、円安により全て値上りし、今後、少しずつ足かせになってくると思います。一方、冷凍食品やアイスクリームの売上は極めて好調です。冷凍食品は安価で種類も豊富であり、保存できるという利点から、スーパーやコンビニでも冷凍食品売り場が拡大しています。特に野菜は現在価格が高いため、冷凍食品の中で最も需要があると思います。また、アイスクリームは温暖化による影響が大きいとは思いますが、安価で美味しいデザートの大様として 10 年連続で売上は伸び続けています。市場がチェーン店のスーパーやコンビニ、ドラッグストアというところに集約され、納品価格も安価であることから、事業を諦めてしまう同業者もありますが、当社は利益が少なくても継続していこうという方針で、来年には創業 70 周年を迎えるまでに至りました。

－物流コストについて－

冷凍車を始めコールドチェーンの維持コストは非常に高く、節約しても大幅なコスト削減はできません。そこで少しでもコストを吸収するため、現状、売上の多くを占めるドラッグストアへのルート販売は人手を要する作業が多いことから、効率的で利益率の高い自動販売機の設置を拡大し、売上をシフトしていくことに取り組んでいます。現在、グリコのセブンティーンアイスを中心に約 600 台の自動販売機を設置できており、コストを吸収できています。

－人材確保や職場整備について－

今後、事業を拡張していくためには、人材が必要だと思いますが、現状は人手不足を感じていません。当社は従業員の離職防止のため定時退社を徹底する他、一年間の変形労働時間制を採用し、冬の閑散期に有給休暇を取得しやすくするなど、働きやすい職場環境作りに努めています。また、高収入を得たい従業員には、頑張ればそれに見合った給与を稼げる制度を設けています。そういったところが評価されてか、当社は従業員からの紹介で働いている人も多く、安定した定着率につながっています。

－事業展開、今後の取り組み－

自動販売機のベンダーとして、グリコのセブンティーンアイスをはじめ、他メーカーのアイスクリームの自動販売機を更に展開していきたいです。また、冷凍食品の自動販売機の事業にも以前から興味を持ち続けており、大手企業の社員食堂が減少していることなどもあって需要は多いと考えます。現在、大手商社やメーカーと協力し、冷凍食品の自動販売機の事業を開始しています。物流面は当社が担っており、徐々に自動販売機を増やし、全国に美味しい冷凍食品を届けていきたいと思っています。



REVICareer

レビキャリア

大企業人材を「転籍」「兼業・副業」「在籍出向」の形態で採用・活用いただけます。

地域企業で
貢献したい！

私の転職が
地域の活性化にも
つながった！

- 
- Point 1** 最大500万円の給付金
REVICareer登録人材を採用すると、給付金が受けられます！
- Point 2** 登録者は大企業の勤務経験者
経営人材として、大企業で経験を積んだ人材の活用が期待できます！
- Point 3** 外部人材による経営革新・事業発展を期待
業務改善、業績向上、海外進出などに、外部人材の知見・経験が活用できます！

本資料は作成時点の情報に基づいており、補助金の上限額などが変更される可能性があります。
最新の情報は、担当窓口または公式ウェブサイトでご確認ください。(https://revicareer.jp/employ/subsidy/)

本レポートは、情報提供のみを目的とした標記時点における当金庫の考え方を示したものです。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなされますようお願いいたします。また、この資料は、当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

お問い合わせ先

株式会社 かなしんトータルサービス

発行 かながわ信用金庫
住所 〒238-0004 横須賀市小川町7番地
TEL 046-826-1515 (平日9:00~17:00)
編集 株式会社 かなしんトータルサービス
住所 〒235-0023 横浜市磯子区森1丁目10番10号
TEL 045-263-6363 (平日9:00~17:00)